



美味しいお茶ありがとう

昨日(7日)は、家庭科室から子供たちの声が聞こえてきました。家庭科室を覗いてみると、5年生のお茶の淹れ方の実習が行われていました。家庭科の学習は小学校5年生から始まります。多くの子供たちが待ち望んでいるのは何といても調理実習です。昨日は、調理実習の入り口ともいえる「お茶の淹れ方」を学んでいました。そう言えば、「夏も近づく八十八夜〜♪」という茶摘み歌の歌詞でも知られる八十八夜とは、いつにあたるか知っていますか？八十八夜の数え方は、春がスタートする立春(節分の翌日、2024年は2月4日)から数えて、「八十八の夜」が過ぎた88日目の日のことです。今年の八十八夜は5月1日(水)となります。かつて茶農家では、八十八夜の日の前後に新茶(一番茶)となる新芽の収穫をはじめていました。私も以前勤務していた校区ではお茶の栽培が盛んで、お茶の品評会にGW期間中に参加していました。現在では八十八夜の日を目安にしながらも、チャノキ(=茶葉が育つ木の名前)の生育状況や天候に応じて臨機応変に茶摘みを行っているそうです。



そのようなタイムリーな時期に、5年生の子供たちは、校長室にもお茶を持って来てくれました。子供たちが淹れてくれた心のこもったお茶の味は、とても美味しく、お茶を飲んでいる間は心がほっとくつろいだ時間となりました。

「オーバードーズ」に気を付けよう

「オーバードーズ」という言葉を聞いたことはありますか？オーバードーズとは、市販薬などを過剰に摂取することを言います。近年、一部の若者の間で広がり、社会問題になっています。昨年12月に、東京都内の小学校で子供2人が校内に持ち込んだ薬を過剰に摂取して体調不良を訴え、病院に救急搬送されたことが話題となりました。咳止めやかぜ薬などの市販薬にも、麻薬や覚醒剤と同じような成分がごく少量含まれていて、決められた量を守らずに服用すると、肝臓や腎臓、脳に後遺症が残る危険性があるといえます。

「愛知県精神医療センター」の吉岡真吾医師は、若者たちを取り巻く環境に着目しています。「親自身が精神的な問題や、経済的な問題、様々な問題を抱えている。子供が育つ環境として非常に過酷な環境になっている中で、学校にも行けず、同じ境遇の子どもたちの中で、ある種のグループができて、オーバードーズが起きる。“グループでやっている”っていうことが、お互いの垣根を低くしてしまい、大きな問題だという認識ができなくなっているのでは」と述べています。また、オーバードーズの経験のある少女は、そのきっかけを「心配してほしくてやってたかも。かまってもらいたかった、多分」と答えています。消防庁と厚生労働省によると、オーバードーズが原因と疑われる救急搬送は年々増加しています。その中で最も多いのが20代で、10代も急増しており、全体の割合では、女性がおおよそ75%を占めているといえます。

法改正の議論も進んでいますが、子供たちの心をサポートする大人の眼差しも必要になってきます。

